

オープン・リサーチ・センター整備事業 「フランス革命と日本、アジアの近代化」の終了にあたって

社会知性開発研究センター長 日高 義博

現在、社会知性開発研究センターでは、文部科学省選定による私立大学学術研究高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター（ORC）整備事業」として、歴史学研究センター「フランス革命と日本、アジアの近代化」（平成15年度選定）、都市政策研究センター「イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策への提言」（平成16年度選定）、中小企業研究センター「アジア諸国の産業発展と中小企業」（平成16年度選定）、言語・文化研究センター「Anglo-Saxon語の継承と変容」（平成17年度選定）、東アジア世界史研究センター「古代東アジア世界史と留学生」（平成19年度選定）の五つの拠点が研究を行っています。このうち、歴史学研究センターが5年間の研究期間を終えることとなりました。

歴史学研究センターでは、本学図書館所蔵の4万7千点を超えるフランス革命関連史料群「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」の調査研究を土台として、①フランス革命研究の深化、②フランス革命とアジアの近代化、③フランス革命と歴史教育、というテーマを柱として研究事業を進めてまいりました。その過程で、多くの国内外の研究者との研究を通じた交流が深まりました。また、国際シンポジウム・公開講座・史料展示には、多数の市民の御参加をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

オープン・リサーチ・センター整備事業では、研究成果を積極的に公開することが義務づけられています。歴史学研究センターは、年一回以上の国際シンポジウム・公開講座の実施、史料展示、『年報』・『会報』・『専修大学図書館所蔵 ミシェル・ベルンシュタイン文庫フランス革命史料集 第1シリーズ』等の出版物を通じて研究成果を公開し、また、若手研究者の育成を積極的に進めてまいりました。こうした取り組みは、本学の掲げる「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」、すなわち研究成果とこれを担う人材をもって社会・地域に貢献するという理念とも合致しております。

いうまでもなく史料は、広く研究されることによってその価値が認められます。そのため、所蔵にあたっては、史料にアクセスしやすい環境作りが必要となります。この間、本学図書館では、従来の冊子目録に加えて「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」のインターネット端末での検索を可能とするシステムの構築が進行しております。社会知性開発研究センターにおいても、この作業を足がかりに「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」の利用促進につながる研究を展開していきたいと考えております。

今後とも社会知性開発研究センターの活動に御理解と御協力を賜りますよう、よろしく御願い申し上げます。